



2017J2 ■順位表☆暫定■第36節

勝点、得点、失点、得失点差、
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

(*つきは消化試合が1つ少ない)

1	湘南	77p	51	28	+23	A△
2	福岡	67p	49	31	+18	A● H●
3	長崎	64p	45	37	+8	H△ A●
4	名古屋	62p	74	57	+17	A△ H●
5	松本	61p	56	34	+22	H●
6	徳島	57p	61	38	+23	A△
7	東京V	57p	56	44	+12	A●
8	横浜FC	57p	52	40	+12	H● A●
9	大分	56p	51	44	+7	H● A△
10	千葉	50p	55	54	+1	H● A○
11	岡山	49p	39	43	-4	A△ H△
12	水戸	48p	40	40	0	H○ A○
13	山形	47p	35	43	-8	H△
14	町田	46p	47	45	+2	A○ H●
*15	京都	45p	47	42	+5	A△ H○
16	岐阜	44p	51	56	-5	---
*17	愛媛	43p	44	56	-12	A● H○
18	金沢	37p	40	63	-23	H○
19	熊本	36p	32	46	-14	H● A△
20	讃岐	35p	37	52	-15	A○ H●
21	山口	28p	42	64	-22	H△ A○
22	群馬	19p	24	71	-47	A○ H○

次回HomeGame

第38節 vs. 東京ヴェルディ

10/21 (土) 16:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱東京UFJ銀行隣り)

年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

Living in Woods

本庄工業株式会社

http://www.honjo-woodream.com/

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町1-23
tel:058-273-8998

today's guest : 徳島ヴォルティス

2016 J2 16勝9分17敗 勝ち点57:9位

直近の対決と結果

2017/06/21
天皇杯2回戦@鳴門大塚

徳島 0-3 岐阜

大本祐槻, シシーニョ,
小野悠斗 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	徳島ヴォルティス
2017/10/08 J2-36節@大銀ド 大分 3-3 岐阜	2017/10/07 J2-36節@鳴門大塚 徳島 4-1 群馬
2017/10/01 J2-35節@長良川 岐阜 2-6 名古屋	2017/10/01 J2-35節@ピカスタ 讃岐 0-0 徳島
2017/09/24 J2-34節@長良川 岐阜 1-2 福岡	2017/09/23 J2-34節@鳴門大塚 徳島 2-2 町田

●10/1 (日)・第35節。遂に「名岐ダービー」がホーム・長良川で開催された。チケットは完売、詰めかけたサポーターは過去最高の17,027人。お互いにショートパスを繋いでの攻撃が持ち味の両チーム、満員のメモリアルで白熱した試合を展開したが、個の技術の違いが出たのか、残念ながら2-6での敗戦だった。続く10/8 (日)・第36節、アウェイ大分戦では、スピードある大分の攻撃陣を防げずに前半で2失点。しかし、後半に攻撃の勢いを強めると、立て続けにゴールを挙げ、試合終盤には逆転に成功する。だが、アディショナルタイムで同点に追いつかれ、悔しい3-3での引き分けとなった。

この2試合で勝ち点を1しか積み上げられなかったFC岐阜は、順位を1つ下げて暫定16位に。17位・愛媛が1試合多く残しているため、順位は17位まで落ちる可能性があるが、残り6試合で、J3降格圏である21位・山口とは勝ち点差16、22位・群馬とは勝ち点差25になった。つまり、FC岐阜の積み上げた勝ち点44は、いわゆる「J2残留ライン」を既に越えているのだが、これで最下位の可能性は完全に消え、今節の勝敗次第では、5試合を残してクラブ史上最速でのJ2残留が確定する。また、上位に目を向けると、プレーオフ圏内である6位・徳島とは勝ち点差が13と、若干厳しい目標ではあるが、それでも勝ち点差6に10位・千葉が見えており、8チームが固まって中位争いをしており、まだまだ順位を上げることができる。シーズン最後までひたむきに勝利を目指し、そして勝ち点を積み取ることが、希望を大きく繋ぐことになるだろう。

さて、その今節の対戦相手は現在6位でプレーオフ圏争いをしている徳島ヴォルティスだ。14年シーズンに四国初のJ1クラブとなったが、1年で降格した後、2年間はプレーオフに進出できなかったが、今年はスペイン人のリカルド・ロドリゲス監督を迎え、選手も大幅に補強してJ1復帰を目指しているチームだ。今季これまでの総得点61は名古屋に次いでリーグ2位の攻撃力を誇り、かつ総失点も38とリーグ5位の成績だ。ここ5試合は1勝3分1敗と少し調子を落としてはいるが、それでも前節は群馬に4-1と圧勝し、調子を上げているだろう。手強い相手になることは間違いない。

徳島とのリーグ戦での通算対戦成績は、FC岐阜の6勝4分9敗20得点30失点と負け越し。ホーム戦では4勝3分3敗12得点10失点と若干の勝ち越しとなっているが、2010年メドウでの勝利以来、過去5戦で2分3敗と苦杯を舐め続けている。今季の5/13 (土)アウェイ第13節では、徳島の攻撃に押されつつも#25ビクトルのビッグセーブなどで岐阜の守備陣が踏ん張り、83分に#28永島悠史が先制して逃げ切れるかと思いきや、アディショナルタイム最後の1プレーで油断が生まれて失点してしまい、悔しい1-1の引き分けに終わった。今節は、何としても最後まで集中して戦いきて、7年ぶりのホーム戦での勝利でリベンジを果たしたいところだ。

徳島で最も注意すべき選手は、やはり#16渡大生だろう。現在20ゴールでチーム得点王、ここ5試合でも3ゴールと好調だ。そしてコンビを組む#17山崎凌吾も13ゴール。徳島のゴールの半数以上を叩き出している万能型FWコンビを封じるため、岐阜のDF陣の奮起が求められる。また徳島には、鹿島から期限付き移籍してきた、多治見市出身・帝京大卒、2012年U-16アジア選手権準優勝・MVPにも選ばれた、#26杉本太郎が所属している。35試合出場5得点の活躍は嬉しいところだが、しかし今節に限っては活躍を許してはならない。一方の岐阜では、アウェイ戦でゴールを決めた#28永島悠史、あるいは5試合で3ゴールと調子を上げてきた#24難波宏明のゴールに期待したい。また、岐阜には昨年まで徳島の監督だった長島裕明ヘッドコーチ、また徳島には09年・15年と岐阜のコーチだった米田徹ヘッドコーチがいる。古巣を分析・攻略しようとする両参謀にも注目だ。

今シーズンも残り6試合。しかし、僕らはまだまだFC岐阜の勝利に飢えているはずだ。確かに、昨年と比べればチームは内容の充実したサッカーをしているが、しかし、その勝利数は11。昨シーズンの勝利数12には届いていない。もっと、勝利を。そのために僕らができることは、最後まで選手を信じて、勝利を信じて、拍手と声援を送ることだ。そして、きっと選手は応えてくれるはずだ。(ささたく)



「いらっやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。
休:月曜日

投稿募集!!

gidaidohri@gmail.com

【第35節】岐阜 2-6 名古屋

●今でも、これまで“過去最多観客”と言われた光景を僕は思い出すがある。公式記録では2014年磐田戦の15,138人なんだけど、J初参入の2008年・プレシーズンマッチ、名古屋グランパス戦。あれはもっと凄かったような気がする。まあ10年も前の記憶ですから曖昧なんですけど（苦笑）。あれから、2008年と2009年の天皇杯では公式戦で対戦したけれど、いずれもアウェイでのカップ戦。今年の3/4（土）は初のリーグ戦だったけれど、アウェイ。遂に、やっと、“名岐ダービー”がホーム・長良川にやってきた。

相当の人数が予想されるからと、僕もかなり早くスタジアムにやって来たのだけれど……さらにその想定を越えてました。開門5時間前半、朝7時の時点で「待機列がプールのあたりまで」という情報が、「プールの（角を折れ曲がって突き）当たりまで」とは思わなかったですよ（苦笑）。そして、他イベントがらみとは言え、9時から営業が始まってしまう屋台村の準備万端たるや（誉め言葉）。絶好の快晴、旨いスタグル。しかも、こんな早い時期にもう降格の心配をしなくていいなんて……まさに「FC岐阜・秋の収穫祭」じゃないですか（笑）。そして、「自分たちも見たことのない光景を見よう」とばかりに、超強気・ちょっと配り終わるまで時間がかかるかとも思いつつながら印刷部数を増やしたつもの『岐大通』も、焼け石に水というか、何というか（苦笑）。12時の一般入場開始までに配り終わってしまいました。

さて、試合は……うん、まさに“祭り”にふさわしい一戦。アウェイでの名古屋が最後に“放り込み”にきたように、リアリストに徹するかなと少し心配したけれど、それは杞憂だった。ただし、お互いが正々堂々、小細工無しに正面切って撃ち合った結果、個の能力・技術・判断力の差、プレーの精度・決定力の差が如実に出てしまったと思う。それに、名古屋の選手層の、もの凄いく厚さときたら。スタメンがJ2反則級なものもさることながら、ベンチに、榑崎・シモビッチがいて、内田・押谷・永井って昨年までは他のチームでレギュラーやんか！（苦笑）あと、前回対戦した時には#44ガブリエル・シャビエルがいなかった。要注意選手だと分かっていたけれど、悔しいけれど、すげー選手だわ。

結果は2-6と大差がついてしまったけれど、それは最後まで点を獲りにいった結果、最後まで勝利を目指した結果だと思う。やはり「ダービー」は、こうでなくては。

ちなみに、僕の中での「ダービー（マッチ）」の定義は、色々と考えてみたけれど、大まかに言って『密接な関係にある地域の2つのクラブチームが、歴史的な経緯により対立軸を有する両サポーターに支えられて、通常の勝敗以上の価値を認められて戦われる試合』なのです。岐阜を含めて、色々“ダービー”を謳う試合はあるけれど、“名岐ダービー”は、限りなく僕の「ダービー」の定義に近いのです。唯一、少し違うのは『両チームのサポーター』ってところ、かな。もっと名古屋サポに『岐阜には絶対負けたくない』って思わせなきゃ。その為にも今回は勝ちたかったなあ……まあ楽しかったから、また来年やりましょうね！（笑）（ささたく）

●やっぱり、名古屋7番の同点ゴール、90分の中では一番の衝撃だったかな？現場では「あの狭いスペースで、よく……」と思ったけど、DAZNで見たらメチャクチャ余裕があって、「あ、そんなら決めるワ。」と納得。アレが噂の、「パスが出た時からネットを揺らすまでの軌道が見えた。」ってヤツじゃないかな、たぶん。ウチの流れだった時だけにインパクトが強い。44番がいなけりゃ……と思っただけはみたものの、彼の得点を省いても2-3。44番の2点目、3点目はウチにアンラッキーなところもあったかもしれない。が、1点目やダメ押しされた5点目、6点目も敵ながらアツパレなゴール。後半の宏矢、庄司が名古屋GKに当てたのと比べて、「決定力、とは？」という思いをさらに強めた次第。順位にはかなりの差があるけれども、試合前までの敗戦数はウチが13で、名古屋が12。

ウチが勝ったら並んでたワケで。なのに、こんなに順位の差がある理由を見せつけられたような気がする。しかし、永井龍はウチとの試合だとよく決めるな（苦笑）。

それでもね、今季の岐阜をやりきった。点差は開いたものの、スタイルを貫き、果敢に攻めていたと思う。長良川だから。ココがホームだから。集まってくれた観客のために、と最後まで戦い抜いてくれたと思う。嬉しかったよ、ありがとう！試合前から終了まで、かつてない雰囲気の中で心底楽しめた。ウチのゴール裏でコレオできたのも嬉しい！ちゃんと、形になってる。ただ、名古屋のゴール裏もスゴかった。赤と黄色で埋め尽くされたスタンド。シンプルであるがゆえに印象も強烈だった。ウチもあれ以上にやりたいな。

試合前から異例だらけだった木曾川決戦。6時10分頃にはメモリアルに到着したんだけど、すでに駐車場が開いてビックリ。待機列がプール横まで伸びてて、さらにビックリ。ボクの前には百人超え……、いや、もっとかな？そして、屋台村もすでに8時前から開店。旧知のグラサポさんが屋台村でビールの注ぎ方を絶賛してくれていて、「ウン！確かにそうなんだよな。泡も必要な時があるけど、あの場所では目一杯呑みたいんだよな〜。」と、まるで我が事のように独りごち。負けたのは悔しいけど選手は全力を出し尽くしてくれたし、グランパスな方々もスタグルに関しては絶賛してくださってるんで、いっそう幸せが身に沁みている今日この頃。できれば、ハシゴで観戦に来てもらって屋台村と玉宮で散財してもらいたいもんですな。しかし、ホントに東海地域は仲良しサンだ。大きな川を挟んで東京と川崎でも、試合後にあんな呑み会やってるのかな？浦和と大宮とか横浜、静岡には元よりそんなイメージないもんな。あ、四国もか。それに仙台と山形も、芋煮を始め、いろいろ譲らないところあるし、だ。こう考えるとウチと名古屋が異端なんだなあ〜、とシミジミ（笑）。

とにかく、素晴らしい一日だった。こんな一日を作り上げてくださった関係者のみなさまに、心からの敬意を。そして、次回の『ダービー』では勝利の凱歌を。願わくはJ1の舞台で。（ぐん）

●未体験ゾーンだった。入場が先行・一般とも1時間早くなり、『岐大通』配布チームは過去最高の1,700枚を用意して臨んだけれど、12時の一般入場開始には配り終えてしまった。12時時点での一般入場列は概算で860m以上だった。

さて、試合は2-6で完敗。でも、惨敗だとはまったく思っていない。ぼくは前号で「大木・岐阜は福岡より名古屋相手の方がやりやすいんじゃないか」と書いたけれど、その通りだったと思う。名古屋の風間監督も「やりやすい」と思ったんじゃないか……というのはあるが（苦笑）。「相手の良いところを消す」ことで勝利を得ようとする、リアルな壱壘戦が主流のJ2にあって、策を弄さずに「やあやあ我こそは今季のJ2におけるポジション・サッカーの雄なるぞ、いざ尋常に勝負っ！」というロマンなカオリがふんだんな戦い。しかし、弱い側が強い側に挑むときに必要なのは『戦術』とそれを活かすだけの『腕』だが、戦術が同じなら腕の立つ側が勝つ。試合の結果には一筋の乱れもなかった。3点差、4点差になっても切れずにピッチを走り回ってボールを奪いに行った岐阜の選手達を誇りに思ったし、試合後の挨拶でも拍手で迎えた。それに、弱者の戦術を採らなかった大木監督も誇らしく思った（ここでブレるような監督ではないと信じているが）。とは言っても、そこにあるのは「4点差」という現実。ロマンなカオリに耽溺せずに、そこは冷静に認識する必要がある。

『ダービー・マッチ』を構成する要素には、地政学的な敵対関係の他に、両チームのサポーターの「相手には負けられねえ」もって踏み込めば「相手には勝つかねえ」という思い、がある。その点で言えば、まだこのカードは『ダービー・マッチ』になっていない。岐阜からの一方通行のラブレターだ。岐阜が名古屋に、リーグ戦で勝った時に初めて『ダービー・マッチ』という種は芽吹くのだろう。（吉田鑄造）

●第35節名古屋戦は私はいつも通りグリーンズで参戦しました。「いつも通り」とは書きましたが、その準備や体制は全然「いつも通り」ではなく、前日ボランティアでは1万数千部の配布物を午前・午後の2部制の作業にのべ数十人のボランティアが参加してセッティングしたり、当日もいつもよりエコステーションの数を多くしたり、客席を周回する人を増やしたりして、可能な限りの体制で臨みました。

試合後も極力スムーズにお客さんに帰って貰えるようにエコステーションで頑張りましたが、いかんせんお客さんが多くて、細かい点ではご迷惑をおかけした事と思います。

今回は1万7千人超の来場者でした。J2に上がった頃は2~3千人の来場者の試合ばかりだったFC岐阜が、名古屋とのダービーとは言えこんなに沢山のお客さんに来て貰えるようになりました。今後はこんな試合が頻繁に開催出来るようになって「昔はお客さんも少なくて楽だったのに、どうしてこうなった??」って愚痴を言いながらグリーンズに参加する日を夢見ています(笑)

最後に、試合について簡単に。試合は大敗となり残念でしたが、個人的には選手の頑張りには満足しています。前向いていきましょう。(ヤックル)

【第36節】大分3-3 岐阜

●終了と同時にコールリーダーが始めたチャントは『誇り胸に』。キツイ負けの後によく使うヤツだ(苦笑)。でも、このチョイスは納得。そりゃ、負けに等しい引き分けとまでは思わないけど、勝つでしょ?この展開で勝てないのがおかしい。前半0-2から残り二十分で逆転。流れはこっち、とは言わないまでも主導権がどちらにあるのかは明白。そして、プレーオフ圏内を賭けたホームチームが失点上等の特攻を仕掛けてくることもわかりきってる。なのに、それにつきあっちゃうヒトの良さ?もちろん、蹴り返すことも必要、試合を切ることも必要。だけど、この展開でこそふだんの繋ぐスタイルだったんじゃないかな?いきりたったホームチームをいなして、かわして、自陣から遠い位置に運んで時間稼ぎでもヨシ・・だったのにねえ。追いつかれた起点は、苦し紛れ?なクリア。それを拾われてサイドに出され、受けた選手が切り込んでゴール。その後も嵩にかかって攻めてくる大分をビクトルの神セーブでようやく引き分け。アノ場面はバックヘッドでビクトルに戻すこともできるくらいにはフリーだったんじゃないのかな?ボクの位置からはそう見えただけだね。逆転してテンション上がったままだったのかもしれない。

ただね。惜しい、じゃない。口惜しい試合だった。春先の湘南戦と同じような展開だったという思いが脳裏をよぎるけど、それ以上に口惜しい。こういう逆転劇ができる。ナンちゃんが入ってスイッチも入る。翼を入れて3バックにした後は庄司はもちろん、正紀まで前線上がりっぱなしでひっくり返す。ココまでは言うことなし。だけども、コレを勝ちきれないから今の順位。そういうことだよな?試合後の監督のインタビュー。それがすべてを物語る。ゼイタクなことを言ってると思うよ?よくやってくれたって気持ちもある。でも、上を狙うんならね。コレは勝たないと。

久しぶりの大銀ドーム。昨季は大分がJ2にいなかったし、その前は4月1日の水曜日という設定だったから、ボクがいかにノータンキなサラリーマンとはいえ参戦できなかったから3年ぶりか。ついに、砥部につく魔境の壁を打ち破ることができるのか、と思ったんだけど来季以降に持ち越しとなってしまった。それにしても、ね。ビクトル様には足を向けて寝られない。5点は防いでくれたよね?シーズン MVP の投票を悩んでたけど、自分の中では決まっちゃったかなあ~。あ、それから、試合後に清本が我々のゴール裏まで挨拶に来てくれました。走り寄る足取りには、何の違和感も感じられなかったのがうれしかった。あとは、試合に出るためのコンディションだね。再び、ピッチに立つ日を待ってます!(ぐん、)

【ユース】Jユースカップ開幕

●我らがFC岐阜ユースU-18(以下FC岐阜ユース)は今年岐阜県内のユース世代のトップリーグであるG1リーグに参加しています。10月7日(土)に中京高校グラウンドで第16節長良高校戦が行われ6対0で勝利!続く10月9日(月)には鳥西グラウンドで第15節各務原高校戦が行われ首位争いをしている各務原高校を2対1で見事破りました!この結果13勝1分2敗の勝点40となり、ついにG1リーグで首位に立ちました!!G1リーグは残り2試合を残すのみですが、この後はJユースカップと岐阜県高校サッカー選手権大会の為に暫くお休みとなり、次の試合は11月18日(土)の第17節中京高校戦となります。第16節終了時点で勝点35で2位の中京高校との直接対決となります!!この試合に引分け以上の結果を残せば最終節を待たずしてG1リーグの優勝を決めます!試合の詳細は後日の本紙にて共有させていただきます。さて、例年秋に開催されているJユースカップですが、その初戦川崎フロンターレU-18戦が本日開催となっている筈です。14時K.O.なんでトップチームの試合中には結果が分かっている筈です。今年こそは勝って2回戦にコマを進めて欲しい物です。

頑張れよ、応援しているからな!!FORZA!FC岐阜ユース!!!

※試合会場・時間は変更される場合が有ります。必ず岐阜県サッカー協会やチームの公式サイトで確認して下さい。

※前号までのこの記事でG1リーグ第16節の対戦相手を長良高校とすべき所を中京高校と間違えて記載していました。大変申し訳ありませんでした。(シュナ)

【国体・少年】愛媛国体の結果

●今年の国体は愛媛戦で開催されています。その国体のサッカー少年男子の部に岐阜県選抜が出場しました。岐阜県選抜は県内のU-16世代の選手から選抜されているチームで、FC岐阜ユースからも4名の選手が選抜されています。ここ最近ではミニ国体で愛知県と静岡県との壁を中々破る事が出来ませんでした。今年のチームは東海ブロックの第2代表として出場しました。

初戦の対戦相手は開催県である愛媛県。10月2日に新居浜市宮サッカー場にて試合が行われました。現地参戦した方の観戦記によると試合は前半から積極的に攻撃をしかけた岐阜県選抜が後半早々に先制点を取る事に成功します。その後も積極的にゴールに迫りますが、圧倒的ホーム状態での声援を受ける愛媛県にミスからの失点などで逆転を許してしまいます。その後は猛攻をかけますが、愛媛県に守りきられて試合終了。初戦を突破する事が出来ませんでした。

来年の国体は福井県で開催されます。それに向かって頑張ってください。(シュナ)

【セカンド】東海1部、全日程終了。

●FC岐阜 Second(以下『セカンド』)の戦う舞台、東海社会人サッカーリーグ1部は全日程を終了。セカンドは2勝4分8敗の勝ち点10で8チーム中7位となりました。残念ながら「2部降格ゾーン」でリーグ戦を終えることとなりました。東海リーグから地域サッカーチャンピオンズリーグを勝ち抜いてJFL昇格を決めるチームが出た場合は、セカンドは東海2部への降格を回避することができます。(吉田铸造)

